

- 主体的・対話的な視点からの授業改善
- SWPBS の導入による学習指導の充実

校長

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にまじめに取り組み、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いてきている。 ●語彙が少なく、必要なことを読み取る・聞き取る力、自分の考えを話す・書く力が十分ではない。	・身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を他の学習の場面で活用することができる。 ・話や文章の要旨や問いの意図を捉えることができる。	・ミニテスト、タブレットのドリル学習やタイピング練習を活用する。 ・文章の重要な部分、問われていることなどにアンダーラインを引いたり、丸で囲んだりさせる確に捉えさせる。 ・SWPBSと関連づけ、聞く力や話す力を高める。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることが身に付きつつある。 ○情報を集めたり、まとめたりすることにタブレットを意欲的に活用しようとする。 ●課題解決について必要な情報を選び、自分の考えを根拠を明らかにして話す・書くことに課題がある。	・自分の考えを理由や根拠をもとにした、必要な情報を活用したりして、相手に伝えることができる。 ・自分の考えとの共通点や相違点について考えながら友達の意見を聞き、学びを深めることができる。	・日記指導において、テーマを決めて自分の考えを書いたり、ヒントカードをもとに自分の思いを表現したりする機会を設ける。 ・互いの考えの可視化、話し合いの観点の焦点化のため、タブレットやホワイトボード等のツールを効果的に活用する。 ・学びを深める話し合いのため、ペアやグループ学習の手引きを活用する。 ・プレゼンテーションアプリなど、自分に合った方法を選んで発表できるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習の仕方など見通しがつくと、自分の考えをもって進んで取り組む。 ○時間や機会を設けることで読書に親しむ児童が増えてきた。 ●自らが課題を設定し、粘り強く取り組むことが十分ではない。 ●発達段階に応じた内容の読書も楽しめるようにしたい。	・自分のめあてをもち、学ぶ楽しさを感じながら課題解決に粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学習を振り返ったり、互いの学びを認め合ったりし、次の学習への意欲をもつことができる。	・授業ではめあてを提示し、振り返りの時間を確保する。 ・友達との交流を通して学びを深められるよう協働的な学びの場を設ける。 ・家庭学習充実期間を設け、家庭と連携して、子供の学習や読書への意欲を高める。 ・タブレットを活用し、自分の課題に合った学習に取り組めるようにする。			

令和4年度 学力向上ロードマップ



